

閉会挨拶

田代康則

この度は、周恩来・池田大作会見50周年記念シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。この記念すべき節目の年に、世界各国から多くの研究者の皆様や一般参加者の方々をお迎えし、意義深い学術交流の場を持つことができました。また、昨年11月15日にご逝去された創始者池田先生の一周年忌の意義を留める機会ともなりましたことに、心より感謝申し上げます。

本シンポジウムには、中国、アメリカ、韓国、フィリピン、スペイン、イタリア、日本をはじめとする45の大学・機関から、数多くの優れた研究者の方々にご参加いただきました。また、発表された論文とサマリーの数は51本に上り、それぞれが未来への貴重な指針を示してくださいました。特に先ほどの基調講演では、周恩来総理と池田先生の会見が持つ歴史的意義や、現代社会への示唆について深い洞察を伺い、大きな感銘を受けました。

これまで、世界各地で池田思想に関する研究が積み重ねられ、その成果は約50冊の専門書、さらに約1000本の関連論文として発表されています。この成果は、研究者の皆様お一人おひとりのたゆまぬ努力と熱意、そして未来を切り開くとの信念の賜物であると思います。改めて、皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。

創価大学では、創価教育100周年にあたる2030年に向け、2年に一回のペースで国際シンポジウムを開催する計画をたてております。2026年には、「第2回世界市民教育シンポジウム」をアジア諸国におけるデューイ教育論をテーマに開催する予定です。2028年には、池田先生の日中国交正常化提言60周年を記念するシンポジウムを開催し、2030年には「第3回世界市民教育シンポジウム」を「創価教育の100年と世界市民」と題し開催する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

以前、周総理の母校である南開大学で行われたシンポジウムにおいて、池田先生は周恩来総理との会見の意義に触れ、次のようなメッセージを研究者の皆様にご送られました。

「私も、グローバルな民間外交のさらなる推進とともに、平和と調和の大地たる新たな『対話の文明』の創造のため、そして両国の永遠の友好のために、尊敬する皆様方とともに、さらなる貢献を果たしていきたいと、強く決意しております。」と。

Yasunori Tashiro (創価大学理事長)

閉会挨拶

この場に集う一人ひとりが、国や文化の違いを超えて、世界平和に向けて共に行動する姿こそ、周総理と池田先生が50年前に抱かれた志を体現するものであると確信しております。私たち創価大学も、本シンポジウムを通じて、平和と共生の未来を皆様とともに歩み続ける決意を新たにしております。

最後に、改めて、周恩来総理と池田先生に対し、心からの敬意と感謝を捧げます。本日は誠にありがとうございました。